

甦る白山の御師(おし) ～エコツアーガイド養成とローカルルールの策定～

環白山保護利用管理協会

代表 深田 森太郎

石川県

はじめに

およそ1300年前の養老元年(717年)に越前(現在の福井県)の僧、泰澄大師によって開山されたと伝えられる白山は、富士山、立山と並び日本3名山と称され、昭和37年に国立公園に指定されています。

石川県、福井県、岐阜県、富山県にまたがり、原生自然の残る重要な場所「特別保護地区」は17,857haと、全国29の国立公園の中でも5番目の広さを誇り、昭和56年には志賀高原、大台ヶ原、屋久島と並んで日本に4ヶ所しかない「生物圏保存地域」としてユネスコにも登録されています。

花の白山と呼ばれるように、およそ250種の高山植物が春から秋に咲き誇ります。ハクサンコザクラやハクサンイチゲ、ゴゼンタチバナなど白山にちなんだ名前を持つ高山植物は20数種にのぼり、高山帯を持つ山としては最も西に位置しています。

日本海から吹きつける季節風が豪雪をもたらし、標高1,000から1,600mに広がる豊かなブナ原生林に蓄えられた雪解け水は、伏流水となって山麓や平野部に様々な恵みをもたらしています。また、飲料水として遠く能登島まで届けられています。

また古くから信仰の対象として崇められた白山は、平安時代前期には山頂への登拝道として加賀禅定道、越前禅定道、加賀禅定道が開かれました。その禅定道の基点は「馬場(ばんば)」と呼ばれ、信仰の拠点でした。加賀馬場は現在の石川県白山市にある白山比咩神社、越前馬場は福井県勝山市にある平泉寺白山神社、美濃馬場は岐阜県郡上市の長滝白山神社です。

これらの地域には御師と呼ばれる人たちが居て、馬場、禅定道を守り、夏場の全国からの登拝者の宿泊や登拝のガイド、冬場には全国の信者へ薬草やお札を届ける活動等を行いながら、白山と共に生きておりました。現在の郡上市白鳥町石徹白(いとしろ)の「美濃の御師」の活動は特に目覚しく、全国2700社以上の白山神社、白山信仰の広がりにも寄与しました。この御師の活躍は、江戸時代の終わりには終息し、御師と呼ばれる人々も絶えてしまいましたが、その心や誇りは山麓に住む人々に受け継がれ、白山国立公園やその周辺地域での自然、景観、文化などの保全活動が続けられています。

白山は、雪が多い！！



白山は、高山植物の宝庫！！



ハクサンフクロ

ハクサンオドリ

ハクサンシヤウナギ



ハクサンシヤウ

ハクサンコサケ

ハクサンタイゲキ

ゴゼンタチバナ

白山には、動物もたくさん暮らしています！！



イヌワシ



ニホンカモシカ



ニホンノザル

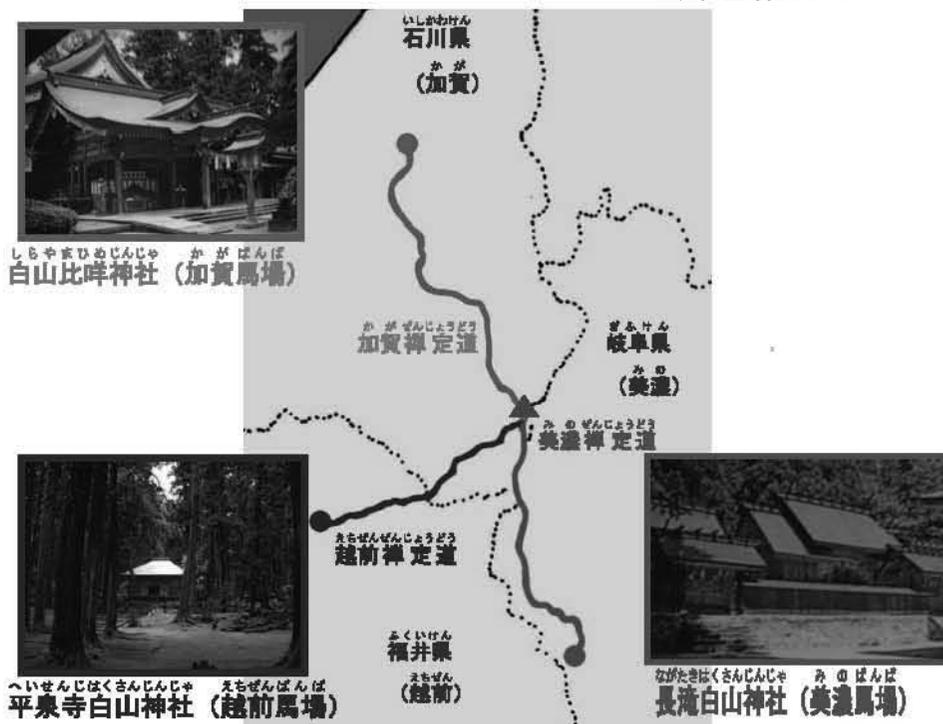
ゆたかな水！！



多くの高山植物が白山を分布の西限とする



馬場と禅定道



1. 現状の課題

①過疎化、少子高齢化

白山麓地域では、林業や狩猟が営まれ、山の管理と保全、そして利用のバランスがとれた暮らしが続けられてきましたが、近年の急激な社会情勢の変化の影響により、人々の生活のスタイルも変化しました。都市部との所得格差増大による若年労働力の都市部への流出、高齢人口（65歳以上）の割合も22%と全国平均19.5%を上回る過疎化や少子高齢化の波が山麓地域に深く影を落としています。

人口

単位：人、%

	総人口	年少人口	高齢人口
石川県白山市	106,977	17,330	17,220
	100	16.2	16.1
高齢化指数			99.4
岐阜県郡上市	49,377	7,808	13,415
	100	15.8	27.2
高齢化指数			171.8
環白山地域	383,485	58,445	83,899
	100	15.2	21.9
高齢化指数			143.6
全 国	127,765,815		
	100	66.6	19.5
高齢化指数			142.9

※ 人口：総務省統計局「国政調査」（全国は総人口17年速報、年少、高齢人口は12年）

※ 白山市の高齢人口が低い要因は、平野部が都市部に隣接する立地が影響していると推測

また産業構造は、第3次産業（観光サービス業）の割合が高い。高度成長期にあっても中山間地域での農林業は衰退し、地域活性化をスキー場事業などの観光サービス業に求めた結果であるが、経済活動の総合力は弱い。

就業人口

単位：人、%

	総人口	就業人口	第1次産業	第2次産業	第3次産業
石川県白山市	106,977	56,981	1,976	21,144	33,861
	100	53.3	3.5	37.1	59.4
岐阜県郡上市	49,377	24,082	1,495	9,963	12,624
	100	48.8	6.2	41.4	52.4
環白山地域	383,485	207,024	15,153	77,048	114,823
	100	54.0	7.3	37.2	55.5
全 国	127,756,815	62,228,245	3,172,509	18,571,057	40,484,679
	100	48.7	5.1	29.8	65.1

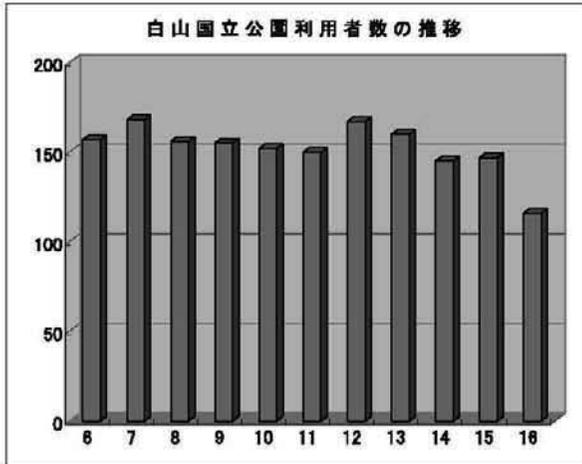
人口：総務省統計局「国政調査」（全国は総人口17年速報、その他は12年）

1～3次産業の割合は就業人口に対する割合

②白山国立公園利用者数の減少傾向

観光統計については、各地での数値の集計方法にバラつきがあるために正確な違いが把握できないので、ここでは白山国立公園利用者の推移と登山者カウンターを活用した利用動態調査の推移を示しました。

白山国立公園の利用者数を過去10年間で見ると、概ね150万人前後で推移しているが近年は平成12年の167万人をピークとして減少傾向となっています。



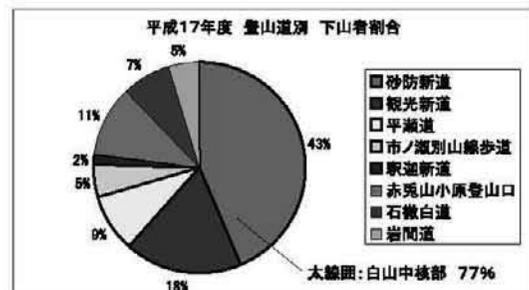
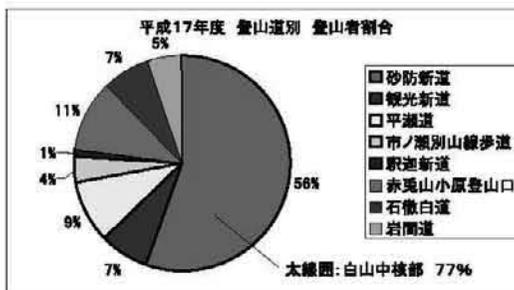
地域活性化への取組み

白山における年間登山者数は登山者カウンターによると砂防新道をはじめとする中核部合計で4~5万人で、登山者の大半は別当出合（石川県白峰）から砂防新道を利用し、次いで大白川（岐阜県平瀬）からの平瀬道利用となっています。

登山者の利用状況は、山頂（御前峰）への一極集中の傾向にあるが、周辺にも人気の山があり、赤兎山などは、平瀬道や観光新道をしのぐほどの人気があります。

また、このデータからは、登山者の6割が7~8月の夏季に集中すること、それに伴い、踏圧による登山道の傷みや周辺植生等環境への悪影響などが懸念されます。

なお、カウンターによる登山者の把握は、他の統計数値（自己申告や聞き取り調査に比べデータとしての信頼性は高いと思われます。



3. 白峰てんぼ塾の活動状況

①エコツアーガイド養成講座

専門家（プロ）の講師をお招きしての講演や講座、地元の古老や歴史研究家、住職などからの知識の習得に加えて、子どもたちの環境教育や一般参加のエコツアーでのガイド実習を通して、知識を知恵に出来るように学びを重ねました。



ホールアース自然学校代表広瀬氏を講師に



白山ろく民俗資料館館長より学ぶ



「白峰おもしろ夜学」の様子



白峰の歴史を古老より学ぶ



エコツアーガイド実践風景ー1



エコツアーガイド風景ー2

(参 考)

平成19年度 白峰エコツアーガイド養成講座 日報

事業名	地域ガイド養成講座「白峰てんぼう塾」		
作業年月日	平成19年 7月 2日(月)、3日(火)	天 候	両日とも晴れ
記載責任者名	環白山保護利用管理協会事務局 南 修		
作業者名 ※イベント等の場合は、 スタッフの名前を記入。	山田 喜一、山口 幸一、白井 康治、織田 毅、上野 太、笹木 進、南		
実施登山道 実施場所等 名 称	7月2日(月) ホテル八幡 7月3日(火) 白山国立公園センター		
作業内容	作業内容 (打ち合わせ、イベント名等)	数量 (規模、参加人数等)	写真番号
	広瀬講師による第1回講座「エコ ツーリズムと白峰の地域づく り」	21名	
	「エコツーリズムと地域づくり」	55名	
作業内容詳細	(7月2日)		
	17:00 スタッフ集合。会場準備		
	17:30 受付開始		
	18:00 主催者挨拶。講座開会		
	21:00 講座閉会。懇親交流夕食会		
	(7月3日)		
	09:30 受付開始		
	10:00 主催者挨拶。講演会開会		
	12:00 講演会閉会		
13:00 広瀬講師を白山市役所経由、小松空港へ送る			
特記事項	7月3日の講演会には、加賀市、金沢市、白山市、能美市、岐阜県、 福井県からも参加があり、内容共々充実した講演会となった。		
	てんぼう塾として初の講演会事業であったが、石川県、白山市も広報等 で協力していただいた。		

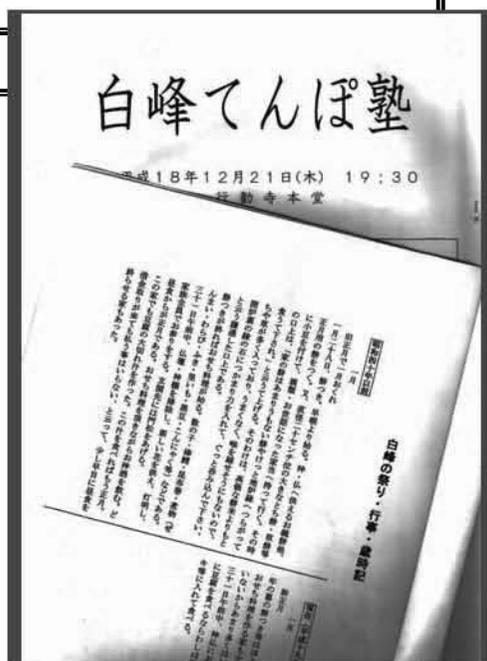
ジゲの歴史に学び、ジゲのすごさを知ろう 白峰てんぼ塾 『白峰おもしろ夜學』

白峰てんぼ塾とは・・・

知っているようで意外と知らないことがある白山や白峰の歴史、生活文化などを楽しく学び、白峰を訪れる人や白峰の若者達に伝えていこうと、平成18年に山田喜一さんを塾長として生まれた、誰でも、いつでも気軽に参加できる活動です。

今月は、9日(月)に行います。

参加をお待ちしています。



- 場 所：白山セミナーハウス望岳苑
- 日 時：平成19年6月9日(月) 午後7時30分から9時頃まで

参加される方は、白峰総湯前に午後7時にお集まりください
マイクروبスで送迎します

- テーマ：今月のテーマ『白山登山の変遷』
- 参加費：500円(資料費・飲み物代として)

◎ お問い合わせは、山口 幸一まで 電話090-7743-****

4. 石徹白十三人衆の活動状況

①エコツアーガイド養成講座

初年度の取り組みでもあり、受講者数を7名限定としてスタートとしました。地元の古老や歴史研究者による講義で知識の習得に加えて、ボランティアを募っての登山道の草刈りをエコツアーとして初めて実施しました。また郡上市の支援をいただき、県政バスでのガイド実習やモニタリングエコツアーの実施を通して、知識を知恵に出来るように学びを重ねました。ガイドのレベル標準化を図るために、ガイド教本も作成しました。



ガイド養成講座の実施検討会



石徹白の古老に学ぶ会



エコツアーガイドとして挨拶する代表



完成したガイド教本第1版



地元の歴史研究者より学ぶ

(参 考)

平成19年度石徹白エコツアーガイド養成講座 日報

事業名	地域ガイド養成講座「石徹白十三人衆」		
作業年月日	平成20年 3月 6日(木)	天候	雪
記載責任者名	環白山保護利用管理協会事務局 南 修		
作業者名 ※イベント等の場合は、 スタッフの名前を記入。	曾我 隆行、石徹白 恵治、石徹白 康晴		
実施登山道 実施場所等 名称	石徹白農村振興センター		
作業内容	作業内容 (打ち合わせ、イベント名等)	数量 (規模、参加人数等)	写真番号
	石徹白忠講師による第4回講座 「石徹白の白山信仰」	15名	7
作業内容詳細	20:00 農村振興センターに集合		
	今回は、公開講座としたので参加者が多かった		
	石徹白恵治代表より、本年最後の講座であること等、挨拶		
	石徹白忠講師の白山信仰や平泉、藤原家とのつながりの講義		
	その後、ガイド教本のゲラをもとに最終検討		
	21:30 平成19年度ガイド養成講座終了。懇親交流会		
特記事項	ガイド教本は、曾我隆行氏の指導を受けながら、事務局長の石徹白康晴さんが完成させることとなった		
	20年度は、郡上市による支援事業「エコツーリズム推進協議会」も発足するらしいので、一層の精進、前進を期待し、当協会としても環白山エコツーリズム推進の拠点づくりに引き続き、関わっていきたい		

(参 考) エコツアーガイド養成講座関連のマスコミ記事



岐阜新聞 石徹白十三人衆



郡上市広報 石徹白十三人衆



北国新聞 白峰てんぼ塾



北国新聞 白峰てんぼ塾

5. 登山道管理・環境保全活動・ローカルルールづくり検討会

①環境保全活動

石徹白十三人衆主催による歴史的な道の草刈体験エコツアーの実施や小原E C Oプロジェクト主催の外来植物除去ボランティア活動などを通じて、白山の環境保全の大切さを学んでいただきました。ローカルルールづくりは、検討会を2回開催しましたが、引き続き利用者の声も聞きながら策定してまいります。



白山道刈エコツアー参加のみなさん



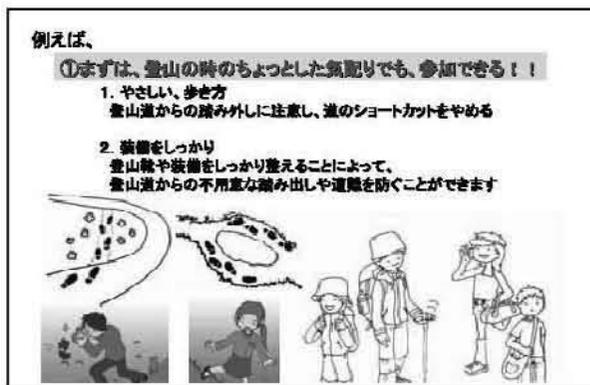
みなさま、お疲れさまです



外来植物除去マニュアル（講習会用）



外来植物除去ハンドブック（参加者用）



ローカルルールハンドブック（案）

②登山道維持管理研修会 「白山登山道」これからどうする協議会

日時：平成20年2月16日(土) 10:00~17:00

場所：シーサイドまっとう 2階研修室

目的：6月に実施した登山道の整備状況や協働する組織の取り組み内容・ボランティア活用等についても整理した上で、白山地域で登山道の維持管理や整備を行っている団体・個人も含めて、広く登山道維持管理手法や懸案事項の聞き取り調査等を実施し把握するとともに、全国の先進事例やより良い管理・整備手法を研究するために実施しました。
登山道を管理している国、県、市町村、委託を受けた管理団体、協力団体等から38名の参加があり、活発な意見交換がされました。

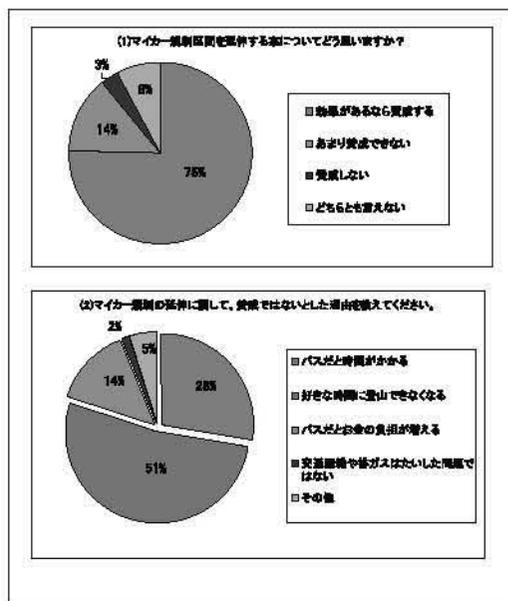
- ・白山登山道について
- ・光ケーブルと作業道管理について
- ・登山道、環境省整備ランクの説明
- ・グリーンワーカーでの登山道整備と実施箇所
- ・各登山道の維持管理状況等報告
 - 大笠山登山道：五箇山自然文化研究会
 - 白山南山稜線（美濃禪定道）：石徹白十三人衆
 - 刈込池～三ノ峰登山道：鳩ヶ湯旅館
 - 大長・赤兎山登山道：小原エコプロジェクト
 - 釈迦新道：ブナの会



登山者アンケート、外来植物除去の調査データパネル



これからどうする協議会での発表



登山者アンケートデータの一例

6. おわりに

エコツーリズム推進による環白山地域づくりの実現には、長い時間と不断の努力が必要になると思われませんが、これまでの活動を通していくつかの地域に地元住民主体の取組組織が生まれ、動き出しています。私達、環白山保護利用管理協会はこれらの組織の皆さんと手を携えて目標の実現に向かって頑張っています。夢や目標は大きいけれども、芽だし期の組織として一番の悩みは活動資金です。今回の公益信託タカラ・ハーモニストファンド助成金は、私達にとって大きな力となりました。あらためて厚く御礼を申し上げます。

最後になりましたが、環白山地域に芽吹いた組織とその活動をご紹介します、目標の実現に向かって地域と共に頑張ることをお誓い申し上げ、御礼のご挨拶と致します。

【環白山エコツーリズムの環】

白山国立公園【環白山エコツーリズムの環】

<p>白山しらみね自然学校 (石川県白山市白峰地区) 地域ガイド組織による地域づくり</p>	<p>五箇山ECOプロジェクト (富山県南砺砺波市五箇山地区) 古道・峠道活用による広域連携推進</p>
<p>産学連携や高齢者の生き甲斐創出等をモデル事業化したエコツーリズム推進による地域循環型経済の確立を目指す住民主体の組織を実現</p>	<p>古道や峠道の整備を通して、歴史的なつながりを掘り起こし、習俗や文化でのつながりを軸とする県境を越えたエコツアーを企画、実現</p>
	
<p>小原ECOプロジェクト (福井県勝山市小原地区) 再生古民家による集落機能再編</p>	<p>白川郷まるごと体験宿 (岐阜県大野郡白川村地区) 地域資源の一体的活用による新事業</p>
<p>離村、豪雪により崩壊した小原集落の古民家を再生することで地元住民の心をひとつにし新たな可能性を生み出した産学官民協働の成功モデル</p>	<p>世界遺産の荻町合掌集落だけではなく、平瀬登山道、大白川園地、平瀬温泉郷などの資源を一体的に活用することで新たな魅力づくりを実現</p>
	
<p>奥越前まんまるサイト (福井県大野市下打波地区) エコツアー拠点づくりに古民家活用</p>	<p>石徹白十三人衆 (岐阜県郡上市石徹白地区) 参加型エコツアーによる登山道整備</p>
<p>地場産業が低迷する地区で、エコツーリズムによる新たな活性化事業を興そうと体験学習や環境学習の拠点として古民家を借り受け、利活用</p>	<p>奈良時代より地元住民により連綿と受け継がれる美濃禪定道の白山道刈高齡化による担い手不足を補うため参加型エコツアーを企画し、実現</p>
	